

“市民の皆さまへ”

八代市厚生会館の今後の方向性についてお知らせします

問合せ 文化振興課 ☎ 33-4533

令和5年4月27日の定例記者会見において、市長が八代市厚生会館に関する今後の方向性を発表しました。その際の市長発言の概要は以下のとおりです。皆さまのご理解をよろしく申し上げます。

厚生会館につきましては、八代市が誇る文化集積地の中心に位置し、昭和37年の開館以降、60年以上の長きにわたり、本市における「文化の殿堂」として存在感を示してきました。

また、文化的側面や建築物としての価値などから高い評価をいただきましたが、その一方で、老朽化に伴う維持管理費の増大や舞台設備等の使いづらさに加え、駐車場不足が長年指摘されるなど、多くの課題を抱えてきました。

さらには、近隣自治体のホール施設と比較した場合、人口規模に対する座席数が少ないことから、興行面での採算性が低く、休館前の平成30年度における利用者数は、最盛期の2割以下にまで落ち込んでいました。

厚生会館ホールを再開する場合、多額の改修費(約20億円)がかかることに加え、これらの課題は引き続き残ることとなります。また、改修によって座席数が従来の964席から700席程度に減少することで、興行面での採算性が一段と低下することも懸念されます。

市では、厚生会館の存続を排除することなく、これらの課題を解決する方策について、検討を積み重ねてきました。その結果、苦渋の決断ではありますが、厚生会館については閉館することとし、次回の市議会6月定例会に廃止条例を提案することを決定しましたので、皆様にお知らせするものです。

閉館の理由としましては、上記の課題が多額の費用をかけて改修したとしても解決できないということです。また、厚生会館を存続させた場合、改修後の耐用年数である約20年後、仮に建物が使用可能であったとしても、再度、多額の投資を行うのかといった議論は避けることができません。未来を担う次の世代にそのような課題を残してはならないというのが、今回の決断の最も大きな理由です。

一方で、「文化の拠点」である厚生会館の機能が失われることにより、本市における文化・芸術活動の振興と発展が後退しないよう、新八代駅周辺に整備を予定している文化コンベンションセンター(仮称)に、その機能の一部を移転するなど、今後の方向性についても下記のとおり整理しました。

厚生会館の開館当時、その真新しく、堂々たる姿に感動を覚えた子どもたちがいたように、新たな文化コンベンションセンターにつきましても、八代の未来を担う子どもたちに感動を与えられるよう、しっかりと整備を進めてまいります。



厚生会館の今後の方向性に関する市長コメント全文はこちら

〈厚生会館が担ってきた役割(機能)〉

文化的価値	<ul style="list-style-type: none">◆ 興行ニーズに沿った客席数◆ 一体感のあるワンフロアの客席◆ 音響効果にこだわった設計
賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none">◆ 市民に身近なホール◆ 発表・体験・交流の拠点◆ 中心市街地の賑わい創出
建築的価値	<ul style="list-style-type: none">◆ 著名な建築家(故・芦原義信氏)による設計◆ DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」選定

〈機能移転に関する今後の方向性〉

文化コンベンションセンター(仮称)	<ul style="list-style-type: none">◇ 様々なステージ機能を有するホール◇ 各種興行・公演に対応するアリーナ◇ 厚生会館記念スペースの設置
厚生会館の跡地利用等	<ul style="list-style-type: none">◇ 賑わいと憩いの場となる空間整備◇ 官民連携した文化芸術イベント開催◇ 桜十字ホールやつしろの利活用促進
記録・保存による継承	<ul style="list-style-type: none">◇ デジタルアーカイブ等による保存◇ 保存模型等の製作◇ メモリアル事業の実施